

通いの場の人材確保に係る短期、中・長期的な課題について

※本資料は、令和5年3月6日の部会で配布した資料です。

項目・分類		アイデア	方針	協議体としての取組み
I 場所の確保・活用	短期	①空き家の有効活用	通いの場の人材確保等に資する取組みのため、全市的に活用が進むよう周知していく方法を協議する。	
		②空きスペースの有効活用		
	中・長期	③Wi-Fiの整備	地域の整備状況と整備に向けた課題を共有する。	・生活支援体制整備部会で今後協議を行なう。
		④移動支援（自家用有償旅客運送など）	地域の現状と課題を把握し、川西市において必要な移動支援の仕組みを検討していく。	

項目・分類		アイデア	方針	協議体としての取組み
II 広報・啓発	短期	①地域活動の広報	地域活動の重要性や必要性、社会参加によるメリットを全市的に周知していく方法を協議する。	・毎年市広報誌に特集記事を掲載できるよう依頼する。 ・生活支援体制整備部会の中で特集記事の協議を行なう。 ・かわナビの周知と利用促進
		②地域活動の動画による啓発		・広報誌等に二次元コードを掲載し地域活動等の動画配信を行なうことを検討する。
		③WEB配信		・講演会や研修での配信の検討する。
	中・長期	④定年退職された層への啓発	特に男性向けに、地域活動の重要性や必要性、社会参加によるメリットを全市的に周知していく方法を協議する。	
		⑤専門職への地域資源の啓発 (地域住民による活動が介護サービスと同等の重要性を持つことの専門職への理解と周知)	川西市において、介護保険サービスと地域活動を有機的に連携させていくために必要な取組みについて協議する。	
		⑥スローガン	介護保険事業計画にて掲げている目標をスローガンとする。	第9期介護保険事業計画策定の際に協議体としての意見を提言する。

項目・分類		アイデア	方針	協議体としての取組み
Ⅲ 活動の 継続・ 発展	短期	①支えあい（訪問・通いの場）活動者の 全市的ネットワーク	活動の種類ごとの全市的なネットワークの立ち上げに向けて協議する。	・活動ごとのネットワーク化での勉強会や情報共有で各地域の活性化をめざす。
	中・ 長期	②ボランティアポイント	ICT機器を用いて事務負担が少なく、ポイントをためやすい制度の実施に向けて引きつづき協議する。	
		③待ッティングカード	取組みを通じて活動団体の強みなどを再確認するきっかけにもなることから継続や活性化につながる取組みを協議する。	
		④ケースワークとコミュニティワークの ネットワーク化、フレーム化	川西市において、ケアマネジャーなどの専門職と社協のコミュニティワーカーを有機的に連携させていくために必要な取組みについて協議する。	・ケースワークとコミュニティワークとの連携 ・専門職へのコミュニティワークへの理解を深めるよう生活支援コーディネーターの働きかけ ・専門職と地域住民合同の勉強会の開催
		⑤学生との協力	若い世代が地域活動に参加しやすくなるよう大学などと連携について、先進事例を共有する。	

項目・分類		アイデア	方針	協議体としての取組み
Ⅳ 他部署 との 連携	中・ 長期	①空き店舗の活用（ガソリンスタンドなど）	空き店舗の活用に係る課題を把握し、先進事例を共有する。	
		②学校の空き時間に教室等を利用	各小・中学校の状況を把握し、利用するにあたっての課題を共有する。	
		③子どもへの福祉教育	現在、社協などで行われている福祉教育の現状を把握し、子どもが地域活動に触れる機会を増やしていくために必要な取組みについて協議する。	・教育委員会への働きかけ ・ボランティア体験
		④必要時に他部署の職員が部会へ参加することによる全市的な取組みの検討	—	川西市生活支援体制整備事業実施要綱において、必要に応じて部会員以外の者を会議に出席してもらうことが可能と規定している。 （事例） ・ポイント制度を検討した際に、健幸マイレージについて健康政策課から説明をもらった。

項目・分類		アイデア	方針	協議体としての取組み
V その他		①子育て世代の転入促進	— (本部会で協議していく範疇を超えているため検討が必要。)	—
		②基準緩和型サービスの利用促進	— (本部会で協議していく内容ではないため。)	—
		③要支援、事業対象者以外のフレイル改善短期集中プログラムの利用の拡大	— (本部会で協議していく内容ではないため。)	—